

平成 30 年度協働事業の評価及び委員会意見

協働事業名	国田地区の名所・史跡探訪を通じた魅力再発見プロジェクト		評価欄 A
協働事業者	国田歴史学習会	市担当課	市民生活課
事業の概要	<p>本事業は、地域の人々によって守り継がれてきた歴史性のある文化遺産を、地域が主体となって掘り起こし、地域の魅力発見につなげるとともに、名所・史跡等の選定過程やウォーキング事業による地区間交流を通じ、近年希薄化しているコミュニティの復活を目指すことを目的としている。</p> <p>平成 30 年度は、案内板を設置するとともに、「田園ウォーク in 国田」（6月 24 日）や歴史講演会（3月 3 日）を開催した。また、国田義務教育学校 9 年生を対象に、地域の史跡をめぐる体験学習会（2月 21 日）を開催した。</p>		
委員会意見	<p>本事業は、歴史、自然、文化継承といった視点から、地域が主体となって、魅力向上に取り組む本事業は、様々な可能性を持った大変有意義な事業である。</p> <p>事業初年度である平成 30 年度は、名所・史跡の案内板の設置を中心に、「田園ウォーク in 国田」や体験学習会など、参加型のイベントを開催し、より多くの人に関わることができた。引き続き、将来の水戸を担う子ども達を巻き込み、多世代が気軽に参加できるイベントの充実を図ってほしい。</p> <p>また、隣接する渡里地区にも歴史的遺産が存在するので、国田地区を核として、近隣地区との連携を図るなど、今後の活動の幅を広げながら事業を展開していくことを期待する。</p>		

協働事業名	スマイルアースプロジェクト ～外国人も日本人も住みやすい地域をつくる～		評価欄 A
協働事業者	グローバルキグループと支える会	市担当課	文化交流課
事業の概要	<p>本事業は、外国人市民と日本人市民がお互いに理解を深めることで、住みやすい地域社会を作ることを目的としている。</p> <p>平成 30 年度は「外国人の子育て応援」を活動テーマに、異文化理解・共生に向けた交流イベント等を開催した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「外国人子育てガイド」（中国語版・韓国語版）の作成 ・国際交流ふれあいの場の開催 ・子育て応援バスツアーの開催（2月3日） ・「スマイルアースパーティー」の開催（3月17日） 		
委員会意見	<p>平成 30 年度で本制度による協働事業は終了となるが、本事業は異文化理解・交流イベントの開催に加え、「外国人子育てガイド」の作成、子育て応援バスツアーを開催するなど、平成 28 年度からの 3 年間で、発展的に事業を展開してきた点が高く評価できる。</p> <p>引き続き、広報活動にも力を入れ、本事業を周知するとともに、今後は、学習支援など、外国人市民の生活により密着した事業の展開を検討するなど、より多くの市民を巻き込み、国際的に活躍できる人材の育成にもつなげてほしい。</p> <p>本事業が、多文化共生のまちづくりの一助となることを期待する。</p>		

協働事業名	水戸オーガニ蕎麦プロジェクト&野菜作り ～蕎麦や野菜栽培を通じた地域交流と健康生きがい増進事業～		評価欄 B
協働事業者	一般社団法人 茨城県健康生きがいづくり協議会	市担当課	農政課
事業の概要	<p>本事業は、水戸市内の遊休農地を有効活用し、農作業を通して多世代で共有する地域社会を実現することを目的としている。</p> <p>平成30年度は、平成30年5月から平成31年1月にかけて、蕎麦や様々な野菜の栽培に関する一連の農作業を実施した。また、地元住民や福島からの避難者との交流を図るため、蕎麦の収穫祭（12月2日）やクリスマス会（12月22日）等の交流イベントを開催した。</p>		
委員会意見	<p>本事業は、遊休農地の活用と地域コミュニティの復活を目指す大変興味深い試みであるが、本制度による協働事業を実施した3年間を通じ、参加者数が伸び悩んでいたことは大変残念である。</p> <p>参加者数が増加するよう、広報活動に力を入れるとともに、参加者のニーズ把握に努め、企画に反映させるなど、参加者の目線にたった事業運営を進めてほしい。また、収支計画と決算報告において、金額がかい離している費目が見られたので、今後は適切な予算計画の作成及び執行を心がけてほしい。</p> <p>平成30年度には地域の福祉施設との連携が図られるなど、地域コミュニティとの連携が図られつつあり、今後の事業展開に期待したい。引き続き、地域住民との関わりを重視しながら、今後の事業運営にあたっていただきたい。</p>		

協働事業名	水戸の緑と野鳥の森整備事業		評価欄 B
協働事業者	特定非営利活動法人 エコ・グリーンいばらき	市担当課	農政課
事業の概要	<p>本事業は、栗崎町、百合が丘町、六反田町周辺にまたがる平地林を整備し、不法投棄を防止するとともに、市民が身近な緑地を感じることができるよう、地域の環境保全と自然保護を進めることを目的としている。</p> <p>平成30年度は、山林の清掃や整備作業、鳥の巣箱づくりや植栽作業等、野鳥が生息できる環境づくりに向けた作業を専門業者や協力団体、一般市民とともに行った。また、野鳥に関する環境講演会（6月2日）を開催した。</p>		
委員会意見	<p>本事業は、地域住民、協働事業者など様々な主体が連携・協力しながら、ハード・ソフト両面の整備を進めており、評価できる。</p> <p>現地が地域住民の憩いの場となるためには、整備作業だけでなく、訪れる市民の安全管理や、トイレの問題について検討を進めることが求められる。様々な可能性を探りながら、今後の事業に取り組んでほしい。</p> <p>今後は、子ども達の環境学習や自然観察の場としても活用されるよう、子ども達へ自然体験の機会を提供しようと活動している団体等との連携も検討してほしい。引き続き、様々な主体と連携・協力しながら、現地が多くの人々の憩いの場となるよう、事業の更なる充実に努めていただきたい。</p>		

協働事業名	谷中二十三夜尊骨董市販わい創出事業		評価欄 B
協働事業者	株式会社日宣メディックス	市担当課	観光課
事業の概要	<p>本事業は、保和苑を中心に、愛宕町から八幡町周辺の観光エリアの史跡・名所と連携し、骨董市を開催することで、地域の販わい創出につなげることを目的としている。</p> <p>平成30年度は、谷中二十三夜尊桂岸寺・保和苑において骨董・蚤の市「格の市」を3回（平成30年6月23日、10月13日、12月8日）開催した。</p> <p>会場では、骨董市のほか、ワークショップ、観光ボランティア「歴史アドバイザー水戸」によるロマンチックゾーンガイドツアーなどが行われた。</p>		
委員会意見	<p>本事業は、3年間協働事業として実施していく中で、地域住民等への波及効果が見られ、平成30年度は保和苑で開催されたあじさいまつりと連携しての開催が実現するなど、地域と連携・協力しながら、活動に取り組んできた点は高く評価できる。</p> <p>一方で、収支計画と決算報告を比較すると、費目の相違や、金額の乖離が見られたので、今後は予算の適切な執行を心掛け、透明性のある事業運営につなげていただきたい。</p> <p>引き続き、地域住民や関係団体と連携を図りながら、骨董市の継続的な開催に取り組んでほしい。本事業が、地域の販わい創出につながることを期待する。</p>		

評価過程・評価基準

【 評価過程 】

6月3日に実施された事業報告会において、協働事業の実績報告書をもとに、協働事業評価シートに沿って、事業の概要、利用者からの評価及び決算報告などについて、協働事業者と市の担当課から報告を受けた。また、協働事業者及び市の担当課に対して、委員による質疑応答を行った。

その後、全体での審議において、各委員の採点を合算し、評価した。また、今後事業を展開するにあたって、協働事業者と市の担当課とが更に協議を深めるべき事項について意見した。

【 評価基準 】

実績報告票及び協働事業評価シート並びに事業報告会をもとに、Plan（企画・計画段階）、Do（実行）、Check（評価）、Action（見直し）の4つの項目に沿って採点した。各委員の持ち点を20点とし、全委員の採点を合計した総合得点を評価の基礎とした。

また、今回の審査では、採点基準を次のように設けた。

☆ 各委員の1項目の評価（5点満点）×4項目×6人＝120点満点

			採点基準
A	評	価	90～120点
B	評	価	60～89点
C	評	価	30～59点
D	評	価	0～29点

☆ 審査項目及び審査の視点（20点満点）

審査項目	審査の視点	配点
1 P l a n (企画・計画段階)	① 事業目的を明確にし、協働する必要性について十分検討したか。 ② 協定書の内容は明確にしたか。 ③ 事業計画は双方協議して作成したか。	5
2 D o (実 行)	① 事業の進捗を共有したか。 ② お互いに役割を果たしたか。 ③ 適切に進行管理できたか。 ④ 変更事項の協議を柔軟にできたか。	5
3 C h e c k (評 価)	① 組織内部で事業を振り返ったか。 ② 受益者の評価を得られたか。 ③ 双方で事業を振り返ったか。	5
4 A c t i o n (見 直 し)	① 改善すべき点が明確になったか。 ② 改善方法は具体的か。	5